

平成7年度九州支部講演会開催報告

平成7年度の九州支部講演会が平成8年2月2日に鹿児島で開催されたので、その概要を報告する。

今年度の講演会で何か特別企画を行うことを準備段階で高橋支部長と事務局で検討した。その結果、小倉義光先生をお招きして特別講演をお願いすることとし、先生をお願いして快諾していただいた。

当日は全国的な寒波の影響で、南国鹿児島でも積雪1cm、最低気温0.6°Cという寒さで、桜島もうっすらと雪化粧していた。講演会は鹿児島地方気象台の新庁舎（平成6年2月合同庁舎に移転）で開催された。会議室も広く、眼前には雄大な桜島が望まれ、設備・環境ともに申し分なかった。

九州大学高橋支部長の挨拶の後、全部で14件（気象台関係7件、大学関係7件）の発表が行われた（題目などについては下記のプロプログラムを参照）。気象台関係からは集中豪雨やメソ気象関係の発表が多く行われた。一方、大学関係からは、大循環モデルを用いた研究や、衛星画像を用いた拡散・局地気候や都市気候・レーダーやビデオゾンデを用いた降雨の研究など、幅広い分野の研究結果が報告された。

講演時間20分、質疑応答時間5分と余裕のある時間配分で、発表内容を詳しく説明し、かつ質疑も十分に出来るなど、全国大会とはひと味違った運営をすることができ、支部活動の利点が十二分に発揮できたものと思っている。小倉先生からは各講演に対して有益なコメントや適切なアドバイスがなされ、特に気象台関係の発表者にとっては非常に励みになったものと感謝している。

小倉先生には「集中豪雨の予報をめざして」という題目で講演していただいた。講演では、集中豪雨発生のシナリオに沿って、

1. 総観規模の特徴

- ① 対流性降雨の原因としての条件付不安定と対流不安定、
- ② 水蒸気補給と下層の湿舌・中層の乾燥冷気流の関係および下層ジェットの原因、

2. 集中豪雨開始前の大気の運動

- ① 潜在不安定を顕在化するための鉛直循環の存在

とその成因、

3. メソ対流系の活動

- ① メソ対流系の形態分類、
- ② 線条エコーの成因、
- ③ backbuilding の重要性、
- ④ メソ対流系の停滞の原因、

など、各段階における重要な事項について、鹿児島豪雨や山陰豪雨あるいは関東地方の線条エコーなどの例を紹介しながら、詳しく説明された。これまでの研究成果を踏まえて、今夏に予定されている九州南方での集中豪雨の観測にどのような方針で臨めばよいかなどについても言及された。さらに、今後の研究テーマの1つとして、気象台などにある過去資料の洗い直しも非常に重要であるとのこと指摘をいただき、地方在住の気象台関係の会員の研究意欲を刺激したものと思われる。

九州にとって防災上最も重要であり、さらに気象学的にも魅力的な研究テーマである集中豪雨について、斯界の第一人者である小倉先生が講演されるということで、会議室には多数の聴衆が詰めかけ大変な盛況であった。質疑応答も活発で、地方での研究活動の活性化、地方在住会員の啓発の一助となったのではないかと考えている。

その後の懇親会にも会員や気象台職員が多数参加し、特に、普段は交流の少ない大学関係者と気象台関係者との懇親を深めることが出来た。

今回の支部講演会の開催にあたっては、鹿児島地方気象台に準備から当日のお世話まで全面的にご協力を頂いた。前田台長（支部理事）以下鹿児島地方気象台の皆様のご努力のおかげで充実した講演会を開催することができた。紙面をお借りしてお礼を申し上げる次第である。（福岡管区気象台 藤谷徳之助）

九州支部講演会プログラム

1. NOAA-AVHRR 画像と高層データによる噴煙拡散の解析：飯野直子*、木下紀正（鹿児島大学教育学部）、後藤あずみ（気象協会情報本部）、菊川浩行（鹿児島大学水産学部）
2. 中小都市における夜間の放射環境について：後藤

- 慎吉*, 桑 南平, 小林哲夫 (九州大学農学部)
3. 九州における高層風・山頂風の相関: 金柿主税* (球磨養護学校), 木下紀正 (鹿児島大学教育学部), 今村和樹 (和泊中学校), 池辺伸一郎 (阿蘇火山博物館), 直江寛明 (気象研究所)
 4. 降水に先行して発現したガストフロントについて: 長野 侑 (福岡航空測候所)
 5. 宮崎沿岸に発生するメソ前線: 川崎健蔵 (宮崎空港出張所)
 6. 南岸低気圧における悪天のメソ天気系概念モデル: 石田尾拓司 (熊本空港出張所)
 7. テイパリングクラウドによる大雨機構 (1995年7月1日の大雨事例解析より): 松浦健次*, 立石晃彦 (種子島測候所)
 8. 非静力学平衡の2次元数値モデル中の内部重力波の伝播 (critical layer に於ける内部重力波の吸収と平均風の減速): 合屋研之*, 宮原三郎 (九州大学理学部)
 9. 長崎市東部を起点にして東北方向に伸びる持続型ライン状降雨エコーの特徴: 荒生公雄* (長崎大学教育学部), 中根重勝 (長崎大学水産学部), 藤吉康志, 武田喬男 (名古屋大学大気水圏科学研究所)
 10. 物理過程を改良した中層大気大循環モデルによる数値実験: 石橋欣治*, 三好勉信, 宮原三郎 (九州大学理学部)
 11. 1995年8月11日鹿児島市を中心とする豪雨について (その1): 田代誠司, 福永信悟* (鹿児島地方気象台)
 12. 1995年8月11日鹿児島市を中心とする豪雨について (その2): 田代誠司*, 山口健司 (鹿児島地方気象台)
 13. 鹿児島地方の大雨パターンについて (比湿を主とした解析): 用貝俊郎*, 服部紀文 (鹿児島地方気象台)
 14. 鹿児島豪雨のビデオゾンデ観測: 高橋 劭 (九州大学理学部)
- 特別講演「集中豪雨の予報をめざして」: 小倉義光

平成8年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の 候補者推薦要領の概要について

東レ科学振興会から下記のお知らせがありました。
詳しいお知らせ (推薦要領や推薦書用紙) は6月頃に
気象学会宛に届く予定です。

記

I. 東レ科学技術賞 (概要)

1. 候補者の対象

貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの

- (1) 学術上の業績が顕著なもの
- (2) 学術上重要な発見をしたもの
- (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
- (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの

2. 科学技術賞

2件前後。1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円

3. 候補者推薦件数

1学協会から2件以内

4. 推薦締切期日

平成8年10月9日(水)必着

II. 東レ科学技術研究助成 (概要)

1. 候補者の対象

貴学協会に関する分野で国内の研究機関において基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者

2. 研究助成金

総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度。

3. 候補者推薦件数

1学協会から2件以内

4. 推薦締切期日

平成8年10月9日(水)必着

III. 日本気象学会への届出締切

平成8年9月13日(金)